



農山林との可能性 中高生SDGsリーダー育成プログラム

京都大学SDGsリーダー育成プログラム

- 次世代を担う地域のリーダー育成を目的とした教育プログラム
- 全国の中高生を対象
 - 高校はSSH・SGH、中学は中高一貫校を中心に声掛け実施
- 2020年度より開講しこれまでに3期開講済み
 - 1期（2020年3月実施）：1Dayワークショップ@京大
 - 2期（2021年6月～2022年3月）：通年プログラム
 - 3期（2022年6月～2023年3月）：通年プログラム
- 愛称：SPARKU
(Solve Problems And Revolutionize from Kyoto University)



SPARKU第3期 概要



- 募集

2022年4月1日～2022年5月16日

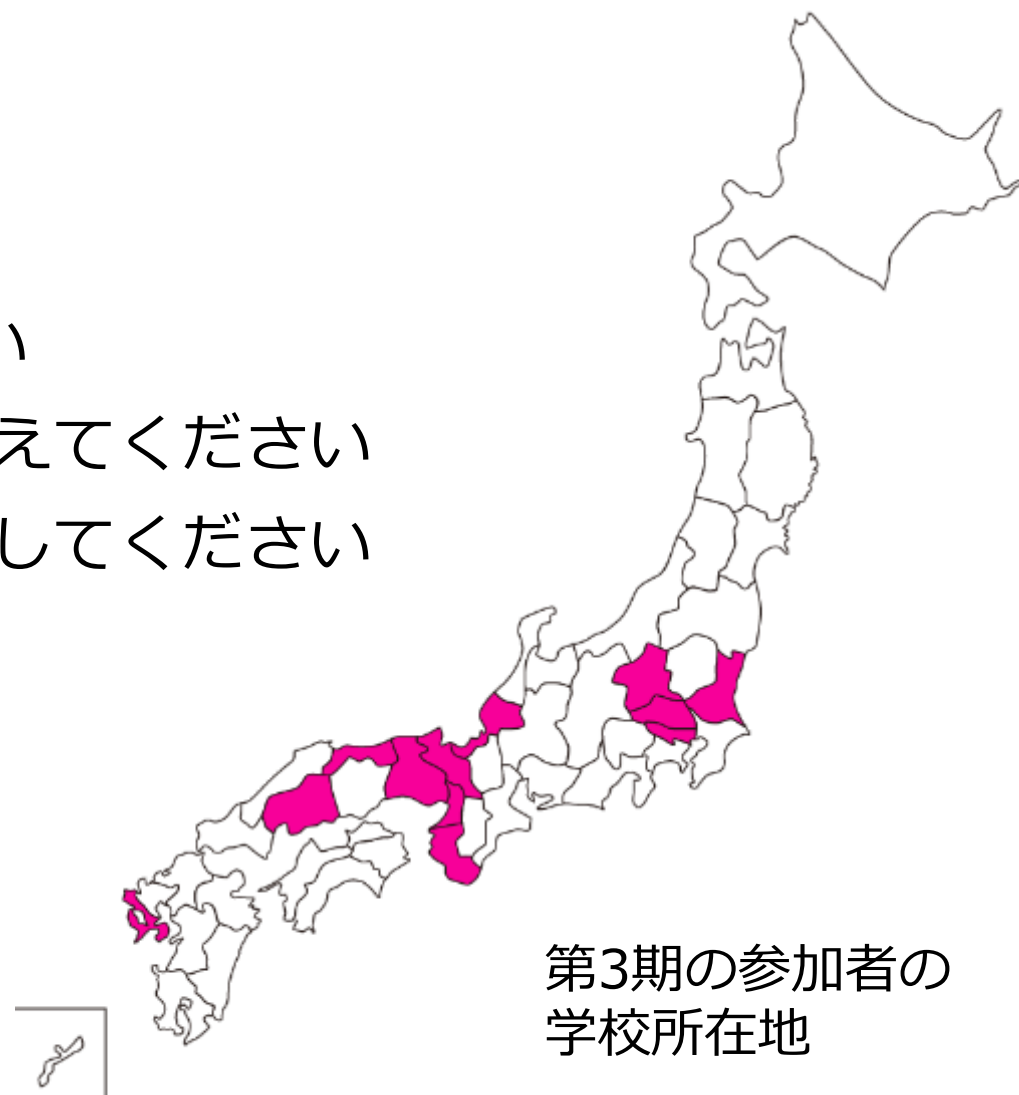
【課題文】（それぞれ600字）

- 1：SDGsに対するあなたの思いを教えてください
- 2：中山間地域の課題をひとつ挙げ、解決策を考えてください
- 3：あなたが「リーダー」と思う人を挙げ、説明してください

- 参加者

計44名（高校生40名、中学生4名）

25校から参加

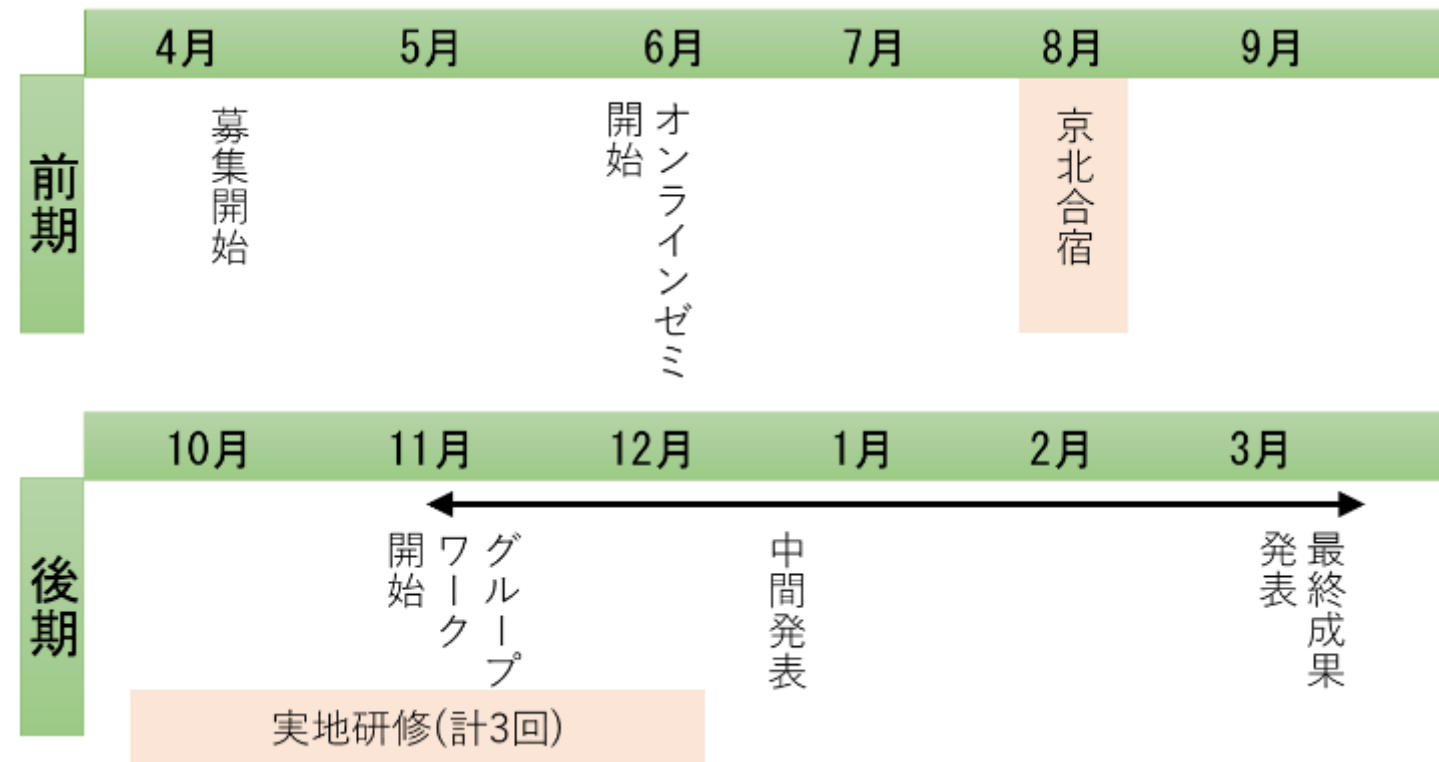


第3期の参加者の
学校所在地

プログラム構成



- オンラインコンテンツ（Zoomにより実施）
 - オンラインゼミ（特別ゼミ含む）
 - SDGs問答
 - グループワーク
- 実地体験型コンテンツ
 - 京北合宿
 - 実地研修



オンラインコンテンツ

- オンラインゼミ
毎月第2土曜日開催（2時間）
講義＋ディスカッションを実施
「答えの**ある**問い」に対する議論・探求
- SDGs問答
毎月第4土曜日開催（3時間）
SDGs問答＋ディスカッションを実施
「答えの**ない**問い」に対する議論・交流

収束型の議論



発散型の議論

オンラインコンテンツ

- 特別ゼミ（ビジョン発見プログラム）
京都超SDGsコンソーシアム企業（Adeco）提供のゼミ
自分の生きがいを見つめ直す「IKIGAI Compass」を
全5回に分けて実施
- 4つのフェーズをそれぞれ見つめ
自分の「いきがい」を見つけることが可能
- 自分と他人の違いを認識して
何を大切にしたいかを考えられる



オンラインコンテンツ

- グループワーク

- 1班あたり4人～5人の少人数グループを作り

- 一つの問いに対してじっくり議論を展開

- 大学生メンターが補助に入り議論をサポート

11月中旬より開始。12/24に中間発表、3/11に最終成果発表会を開催

【問】対象とする（具体的な）地域を、次から1つ選び、その地域を持続可能にする仕組みを提案してください。

- 1) 農山漁村

- 2) 都市

- 3) 農山漁村と都市が繋がった地域

1班：茨城県石岡市の森林保全構想

2班：京都府美山地域の酪農インターン構想

3班：京都府京北地域のAgriTech農業学校構想

4班：兵庫県神戸市の農業活性化と都市内格差是正案

5班：福岡県八女市のフルーツ農業体験構想

6班：和歌山県広川町の防災×みかんスタディツアー

7班：和歌山県太地町の捕鯨教育推進案

8班：東京都ト一横安全化構想

9班：京都府宇治田原地域の茶殻活用案



実地体験型コンテンツ



- 京北合宿

2022年8月7日～8月9日

2泊3日の宿泊型研修として開催

【狙い】 五感で里山・中山間地域をありのまま感じる

【1日目】 SDGs京北問答
地域住民の方との座談会

- － 林業
- － 女性の活躍
- － 漁業・狩猟
- － 行政



実地体験型コンテンツ



- 京北合宿

【2日目午前】 林業体験ワークショップ

- 山林管理体験
- ログハウス組上げ体験
- ことす椅子木工体験

北桑田高校のご協力により実現
在校生とSPARKU参加者合同のワークショップ

林業の各フェーズを体験することが可能になった



山林管理体験の様子

実地体験型コンテンツ

- 京北合宿

【2日目午前】 林業体験ワークショップ

—山林管理体験

—ログハウス組上げ体験

—ことす椅子木工体験



木工体験の様子

←ログハウス組上げ体験の様子

実地体験型コンテンツ



- 京北合宿

- 【2日目午後】 自由散策

- ことす散策

- Adeco小杉山さんと座談会

- ウッディ京北へ買い物

- 【2日目午後】 ビジョン発見プログラム第1回

- 【2日目夜】 グループワーク

- 問い：中山間地域を地方創生して

- 持続可能にする事業計画の作成



自由散策（はし作り）の様子

実地体験型コンテンツ



- 京北合宿

【3日目午前】グループワーク発表
手書きA2ポスターを使った
ポスターセッション形式で実施

合宿中に触れた京北での体験をもとに
課題を整理して、チームとして議論を展開できた

9月のゼミで大学生メンターからの
フィードバックを元に再度内容を深めた
⇒ブラッシュアップすることも体験



ポスターの1例

実地体験型コンテンツ



- 京都市南部クリーンセンター（さすてな京都）見学
2022年10月29日実施
【午前】中書島駅付近散策
【午後】さすてな京都見学&ワークショップ

廃棄物処理と循環型社会の形成がテーマ

実際にごみ処理場を見学したことで

「他人事から自分ごとになった」

「考えるだけでなく行動する必要があることを感じた」

といった感想を抱く学生が多かった



見学中の様子



ワークショップの様子

実地体験型コンテンツ



- 茅刈り体験会

2022年12月15日実施

【午前】ほろろん茅場で茅刈り体験

【午後】茅葺屋根の建物（ほろろん）見学

2022年度に引き続き開催

茅葺屋根に使われる茅の収穫と乾燥作業を体験



茅刈りの様子



囲炉裏を囲んで昼食→

第3期参加者からの感想

- このプログラムに参加して成長したと思うところ
「これまで自分から進んで議論に参加したり、まとめる役になったことがなかったけれど、今回のプログラムを通してそのような役割を担えるようになった。」
「自分の意見をためらわずに言えるようになった。」
「誰かの意見に対して、質問する力がついた。」
「考え方の視野が広がった。」
「今まで自分の関わったことのない分野や場所に関して知り、考えるきっかけになった。」

概ねプログラムの主目的が達成されたといえる

第3期参加者からの感想

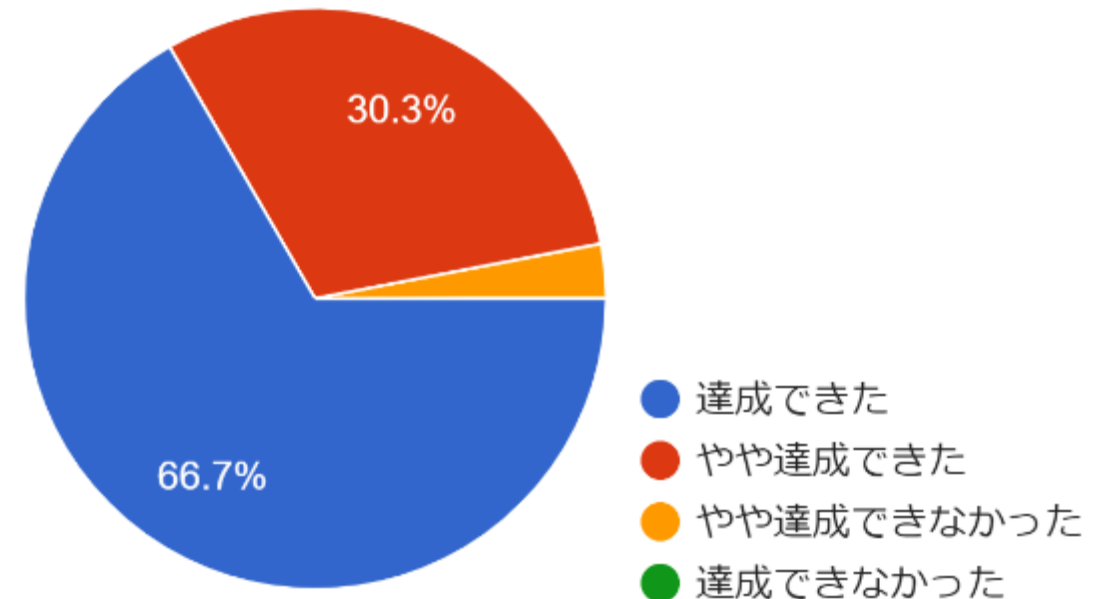
- 参加した理由

実際に中山間地域に行って、様々なことを実感したいと思ったから。
全国の高校生と交流することで自分の視野を広げること。
SDGsに関する課外活動をしたかったから。

- 満足度

非常に高い満足度になっており、
開催の意義があったと言える

Q.参加動機は達成できましたか？(33件回答)



まとめと今後に向けて

- まとめ

約1年間の長期教育プログラムとして、十分効果があったと考えられる。
特に、オンラインツールを活用することで全国から参加者が集まり、
普段とは違う視点からの意見に触れられる機会を多くできた。
SDGsに興味ある中高生のネットワーキングとしても機能した。

- 今後に向けた課題

コンテンツの更なるブラッシュアップ
“リーダー育成”に向けた深化の必要性
教育効果の定量的評価

+

Youth Summitとの連携